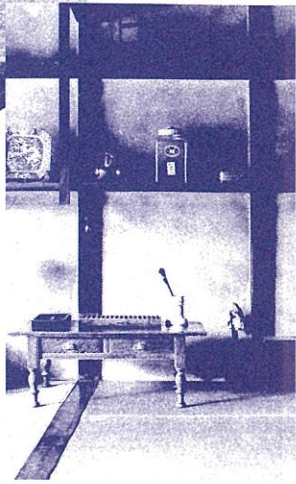
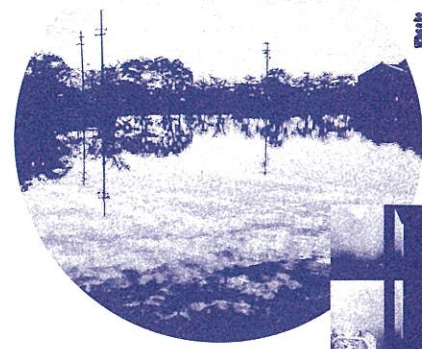




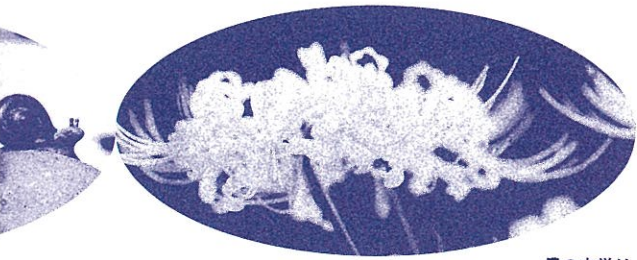
ねぎの花。
大根の花。菜菔の花。
雨にふられて咲いていた
白つつじの花。
自然は何とふんだんに
花を馳走してくれることか。

こんな風景は依然ちっとも自分の感
興を起さなかったが、近頃はこんな
ありふれた身近なものを美しいと
思うようになった。ごく平凡な百姓
達でもよく見ていれば誰もが書
いた事のないような新しい性
格をもっており、彼等の会話
にはどの詩人もうたわな
かったような面白い
詩がある。

自然の
ふところ。
そこでは
考えを
整理する。



新美南吉の 七世木と



僕の文学は
田舎の道を分野とする。

田舎

2025
7.30 水
11.25 火 10-18時
※最終入場 17時30分

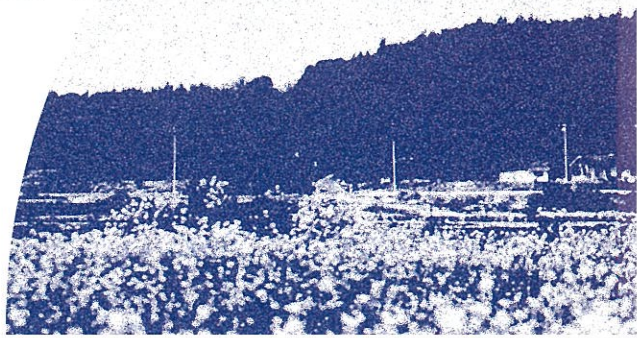
半田赤レンガ建物

〒475-0867 愛知県半田市榎下町8
<https://handa-akarenga.com/>

入場料 [中学生以下無料]

企画展 400円 常設展 セット券 500円

協力 新美南吉記念館
NPO法人ごんのふるさとネットワーク、株式会社エヌ・エフ・ユー、大同大学情報学部情報デザイン学科 吉田研究室





元「校定新美南吉全集第4集」
—東京外国語大学当時の南吉—

新美南吉の

言葉と風景



僕の文学は
田舎の道を
分野とする。

29歳で夭折した新美南吉が残した、優しくも鮮烈な言葉たち。

若くしてこの世を去った彼の詩や日記をひもとくと、
そこには、世界を見つめる豊かな視点が広がっています。
結核という病を抱えながら、身近な自然や人々の暮らしを、
南吉は温かく、時に鋭いまなざしで見つめ続けました。
この展覧会では、東海エリアで活動するクリエイターたちと
ともに、南吉の瑞々しい感性を現代の視点から再解釈します。

また関連企画では、南吉の青年らしい一面や、甘いものが
大好きだったエピソードなどを通じた人間味あふれる魅力、
そして各種のワークショップを通じて創作の喜びにも
触れていただければと思います。

本展が、皆さんの日常になにかしらの気づきをもたらし、
南吉の言葉とともに、“世界を見つめる新たなまなざし”を
育むきっかけとなることを願っています。

イベントディレクター

吉田雅彦

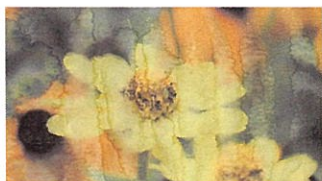
大同大学 情報学部情報デザイン学科 准教授

だらしない奴だ、私は。
いつでも口を動かしている
子供のように、
いつでも恋愛をしているのだ。



死ぬのは嫌だ。
生きていたい。
本が読みたい。
創作がしたい。

ARTIST
出展作家



石川 真衣
Misa Inoue



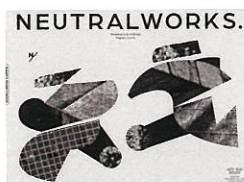
稲葉 天祐
Tetsuya Arai



太田 晶
Shota Matsumoto



坂田 健一
Kenji Sakata



白澤 真生
Naoto Shirasawa



つちやみさ
Tetsuya Arai



ひろせ まな
Hironobu Hasegawa



細井 章世
Akiyo Inoue



もりもと りんな
Rina Morimoto



みやじま そら
Sora Miyajima

※画像の一部には参考作品が含まれます。展示は新作がメインです。
■展示協力 | 『半田運河ブランドブック』 製作:株式会社エヌ・エフ・ユー／撮影:人と風の写真家 abubu
■イベントディレクター(企画・キュレーション) | 吉田雅彦(大同大学 情報デザイン学科情報デザイン学部 准教授)

WORKSHOP

関連ワークショップの紹介

会期中、出展作家や大同大学の学生、地元クリエイターらによる
関連ワークショップや謎解きを開催します。
南吉が見つめ続けた身近な自然や暮らしの魅力を、彼の眼差し
に習って再発見してみませんか?親子での体験や旅の記念に、
ぜひご参加ください。詳細はQRコードおよび赤レンガ建物HPを
ご覧ください。※一部事前予約制となります

ワークショップ事前予約

<https://gonnookurimono.stores.jp>



半田赤レンガ建物

〒475-0867 愛知県半田市榎下町8
<https://handa-akarenga.com/>

